

地域とともにある学校づくり

～地域に開かれ、地域に支えられ、信頼ある学校～

【宇部市 小野中学校区】

地域の概要

小野中学校区は、宇部市の北部に位置し、校区の広さは市内で最大です。

西日本でも有数の茶の生産地として有名です。毎年5月には茶畑で「宇部市八十八夜お茶まつり」が催され、市内外からの人出でにぎわっています。

また、宇部市の水がめである小野湖は「ダム湖百選」に選ばれたことのある人造湖であり、毎年夏には交流ボート大会が開催されるなど、憩いの場ともなっています。

水鳥の生息地でもあり、日本で有数のオシドリの飛来地としても知られています。

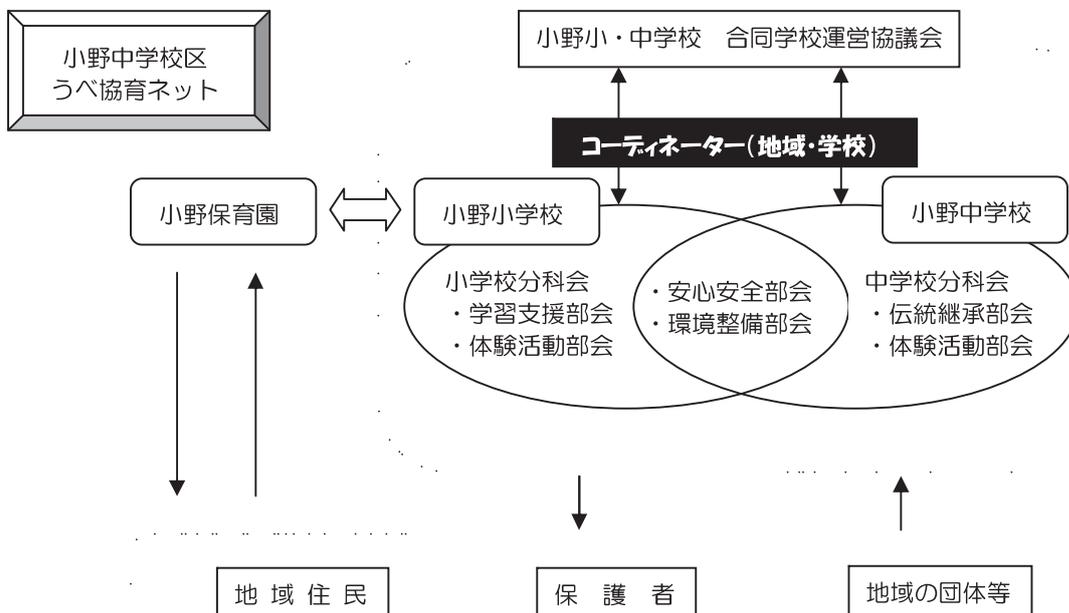
| | | |
|------------|--------|-----|
| 人口 | 1,418人 | |
| 世帯数 | 658世帯 | |
| 対象校及び児童生徒数 | 小野中学校 | 18人 |
| | 小野小学校 | 27人 |

組織の内容

小野中学校区は宇部市でも数少ない1小学校1中学校の校区で、以前から小学校と中学校の連携に努めていたところですが、コミュニティ・スクールを進めるために組織した小野小学校と小野中学校の学校運営協議会を併せて「小野中学校区うべ協育ネット」の推進母体としています。

過疎化と少子高齢化が進み人口減少が進む中で、地域の方にとって学校は扇の要のような校区のシンボルであり、子どもたちの健やかな育ちのために、地域ぐるみで放課後子ども教室などに取り組んでいます。

小学校、中学校の学校運営協議会は、その都度合同で行っており、9年間の子どもたちの育ちや学びについての方向性を共有しています。



特色・重点的な取組

小中連携に留まらず、校区にある保育所との連携も構築しており、地域との連携と相まって様々な学校支援や体験活動、また地域行事に相互の支援協力を行っています。子どもたちの育みについて、地域の積極的なかかわりがあり、人口が少なくてもつながりがしっかりとっています。

主な活動の紹介

【合同運動会】

学校と地域をつなげているものの一つに、「小野小学校中学校・校区大運動会」があります。毎年工夫を凝らした内容となっており、児童生徒、地域の方が協力し合う種目やお互いを応援する競技などがあり、一層地域の^{きずな}絆を深めています。どの種目にも大人も子どもも一所懸命に取り組み、楽しく、思い出に残る運動会となりました。

【保育所との交流】

小学校では、低学年が地元保育所の園児を招待する交流会を毎年行っています。今年度は、1年生と2年生が協力し、親しみをもって迎えるための場として「おもちゃランド」を用意しました。園児として迎えられたことのある1・2年生が、今度は良きお兄ちゃん、お姉ちゃんぶりを発揮し、おもちゃづくりや遊び方のルールづくりなど、園児に付きっきりで世話役を担い、園児と交流を深めました。おもてなし役の小学生からは「楽しんでもらえてよかった」という感想が多くありました。また、中学校では、家庭科の授業の一環として、毎年3年生が保育実習を行っています。

【地域との交流】

小野地域の地場産業だった「和紙づくり」をツールとして、地域との交流を深めています。中学校では、すいた和紙を卒業証書に使うこととしており、技術をもった地域の方々^{こうぞ}に和紙の原料となる楮の提供から乾燥まで、和紙の作り方の工程すべてを指導していただきます。たくさんの工程を経てできた和紙を使った卒業証書は、生徒と故郷をつなぐ宝物ともなっています。



合同運動会



保育所との交流



地域との交流

成果と課題

小中連携はもとより、学校と地域の連携による学校支援、学校の地域貢献がネットワークとして機能していることで、児童生徒は地域全体で支えられていることを実感し、地域への愛着心が育っています。このように、学校と地域が連携することが、地域ぐるみの子どもの健やかな育みにつながっています。

少子高齢化が進む中で、学校と地域の連携をいかに継続していくかが課題として挙げられます。

今後の取組

ふるさとに愛着をもち、地域の未来を担っていく子どもたち（人材）を育てていくことが必要です。大人になったら地域を支えるという「支援の循環」を構築していくためにも、学校・家庭・地域の連携の下で「熟議」の場を設け、共通理解を深めながら実践に結び付けられる仕掛けづくりをしていきます。